

PICK UP

筑野食品工業株式会社

設立年 1949年 従業員数 560人

こんな会社なんです!

1947年、和歌山県にて創業。古来、健康と美のシンボルとして親しまれてきた“米ぬか”から作られる食用油「こめ油」をはじめ、米ぬかを原料とした医薬品原料や化粧品原料などの製造・販売を行っている



～気になる企業、モノづくりの裏側に迫ります～

“米ぬか”を利用した商品開発を行う筑野食品工業が、まったく新しいタブレット型食品「まるいの」を昨年、発売した。その開発の裏側に深堀りします!



ほんのりレモン味のタブレット まるいの

新ブランド「DREAM IN RICE BRAN!」より発売中のほんのり甘いレモン味のタブレット。忙しい毎日を送る方に「イノシトール」を手軽に生活に取り入れてほしいという想いから生まれました。全国のCosme Kitchen/Biople/筑野食品オンラインショップで発売中



米ぬか由来の「イノシトール」を使った食品を若手社員が開発

「忙しい毎日のお供に、イノシトール」を手軽に取り入れてほしいという願いから開発しました。今までも、米ぬか由来の医薬品原料などを発売してきま

したが、企業向けがほとんど。一般のお客様向けに販売する新ブランドの初商品に入社1年目から携われるのは驚きうれしさでいっ

筑野食品工業といえば、国内有数の「こめ油」のメーカーとして知られる老舗企業。そんな同社が、昨年末に発売した新商品がタブレット「まるいの」だ。米ぬか由来のビタミンB様物質「イノシトール」を主成分とした食品である。この画期的な製品開発の裏側には、プロジェクト開始当時、入社1年目の嶋田さんと4年目の井上さんという若手コンビの活躍があったという。

「イノシトールの良さがしっかりと出るよう、どれだけ分量を入れるかと、それを固めて食べやすくするのに苦労しましたね」
結果、1粒に250mgを配合することに成功。若手社員に積極的に委ねることで、まったく新しい商品が誕生した。この軽やかさが筑野食品の強みなのだ。

「当初はグミやアメ、ゼリー状にする案もありましたが、忙しい方に向けて食べやすさを考慮してタブレットになりました」
一方、実際にタブレットの製造工程に携わったのが、和歌山県にて研究開発に励む井上さんだ。一般的には、食品会社の研究職が、基礎研究から商品開発まで、広く携わるのは稀なこと。和歌山と東京をオンライン会議で繋ぎ、試行錯誤を重ねたという。

「ばいでしたね」と語るのは嶋田さん。東京の企画・広報チームに所属し、まず、具体的な商品のターゲット層やイメージを固め、先輩社員の協力をもらいながら、進めていった。



2021年入社
企画開発部
井上雄紀さん

和歌山県にある研究所にて研究・開発に携わる傍ら、社会人ドクター制度を使い、和歌山県立医科大学薬学部にて学ぶ日々。「休日は、珈琲を生豆から焙煎して飲むのが趣味です」



2024年入社
経営企画部 広報販促課
嶋田歩果さん

東京営業所にて、商品の企画・広報に携わる。「1年目から主体的に商品開発に関われるのがこの会社の魅力。勤務後には、ジムやダンスレッスンに通ったりするのが好きです」



嶋田さんが、商品開発の過程で、デザイナーや関係部署とやり取りをしながら進めた、パッケージの色校正刷り